

報道関係者各位

2014 年 10 月 吉日

御歳暮や年始のご挨拶に
平成 27 年（2015）の干支・御題菓子販売

株式会社虎屋は、平成 27 年（2015）の干支「未（ひつじ）」と歌会始のお題「本（ほん）」にちなんだ新商品を、年末年始の期間限定で販売いたします。新年ならではの寿ぎを表わす華やかな菓子で、一年のスタートを切ってはいかがでしょうか。

<平成 27 年（2015）は未年>

羊は毛やミルクをもたらし、暮らしを豊かにする生き物として大切に育てられました。その羊にちなんだ菓子をご紹介します。



干支羊羹 『のどかひつじ』

道明寺羹と煉羊羹で、2 匹の羊が仲良く寄り添い、のどかに新年を迎えるさまを表わしました。

販売期間：

2014 年 11 月下旬～2015 年 1 月下旬（予定）

販売店舗：全店

価格：1 本 (330g×2) 3,888 円（本体価格 3,600 円）

ハーフサイズ 1 本 (330g) 1,944 円（本体価格 1,800 円）



干支パッケージ小形羊羹

『夜の梅』（小倉羊羹）、『おもかげ』（黒砂糖入羊羹）、『新緑』（抹茶入羊羹）の 3 種類を干支のパッケージでご用意しました。

販売期間：

2014 年 11 月 20 日～2015 年 1 月上旬（予定）

販売店舗：全店

価格：各 1 本 260 円（本体価格 240 円）

5 本入 1,404 円（本体価格 1,300 円）



『春のまどろみ』(道明寺製 紅餡入)

羊が暖かな春の光を浴びながら、穏やかに眠る様子を表わしました。

販売期間：

2014 年 12 月 16 日～2015 年 1 月 15 日

販売店舗：生菓子取扱店全店

価格：1 個 486 円（本体価格 450 円）



『笑み未』(桃山製 特製白餡入)

冬が終わり、春を迎えた草原で嬉しそうに跳び回る羊をかたどったお菓子です。

（特製白餡…白餡と白餡餡を混ぜ合わせたもの）

販売期間：2014 年 12 月 16 日～2015 年 1 月 15 日

販売店舗：東京・京都地区の生菓子取扱店

価格：1 個 486 円（本体価格 450 円）

*「卵」を含む

<平成 27 年（2015）の歌会始のお題は「本（ほん）」>

お題「本」にちなみ、おつくりした菓子をご紹介します。

「歌会始」について

人々が共通の題で歌を詠み、その歌を披露する「歌会」。その中でも、天皇によって開催されるものを「歌御会」といい、年の始めに開かれるものは「歌御会始」と呼ばれていました。大正 15 年（1926）以降は「歌会始」と改められ、今に至ります。平成 27 年（2015）の歌会始のお題は「本（ほん）」です。

「御題菓子」とは？

その年の歌会始の「お題」にちなみ、考案された菓子。明治 7 年（1874）、それまでは皇族・側近のみの参加であった歌会始に、国民の参加も認められるようになりました。こうして歌会始の「お題」が身近なものになってきたことも背景に、明治 21 年（1888）、京都の上菓子屋の有志が集まり、「お題」にちなむ菓子の展示を開催。これをきっかけに「御題菓子」をつくる店が増えていきました。当店では明治 40 年（1907）に、歌会始にちなんだ菓子をおつくりした記録があります。



御題羊羹 『識のみち』

先人の知識の結晶であり、新しい世界への道しるべともなる本が、書棚に並んでいるさまを表わしました。

販売期間：

2014 年 11 月下旬～2015 年 1 月中旬

販売店舗：全店

価格：1 本（330g×2） 3,888 円（本体価格 3,600 円）

ハーフサイズ 1 本（330g） 1,944 円（本体価格 1,800 円）



『きのうのつづき』（きんとん製 小倉餡入）

「栞」は、山道を歩く際に木の枝などを折って道しるべとする「しおる」を語源とします。白と茶のそばろで本に文字が記してあるさまを表わし、紅色の栞を添えています。

販売期間：

2014 年 12 月 16 日～2015 年 1 月 15 日

販売店舗：生菓子取扱店全店

価格：1 個 486 円（本体価格 450 円）

*「小麦」を含む

<羊羹と正月の深い関係？>

江戸時代、有名な菓子屋の一つであったかなざわたんご金沢丹後の暑中・寒中・年頭の付け届け先とその内容を記した記録からは、年頭に寺社・武家などの得意先に羊羹を贈っていたことがわかります。また、江戸深川に店を構えたふなばしや船橋屋おりえ織江も、店の名物「難波羹」を配っていたそうです。

一方で、羊羹は一般にも年賀の品として使われていたようです。たとえば、「新板大江戸名物双六」の「鈴木やうかん」（鈴木越後の羊羹）のコマは年始回りの絵で、大きな角盆に並べた羊羹や菓子袋が見えます。

このように、羊羹は昔から大切な相手への贈答であったことが想像されます。

<本件に関するお問い合わせ>

株式会社 虎屋 社長室広報課 担当：奥野

電話：03-3408-4128 FAX：03-3796-1548 MAIL：kouhou@toraya-group.co.jp